記者発表資料

平成２４年　７月２５日
東 北 地 方 整 備 局

入札監視委員会第二部会第１回定例会議（７月１７日）の審議概要について

～抽出案件６件を審議、意見の具申・勧告はなし～

平成２４年度東北地方整備局入札監視委員会第二部会第１回定例会議が、７月１７日（火）、東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要（別紙）についてお知らせします。

議事では、委員により抽出された案件６件の審議が行われ、委員からの意見の具申・勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問 い 合 わ せ 先

国土交通省　東北地方整備局
仙台市青葉区花京院一丁目１番２０号　　TEL (022)716-0013（ダイヤルイン）

契 約 管 理 官　佐藤（さとう）　豊（ゆたか）（内線６２２１）

経理調達課課長補佐　鈴木（すずき）　重勝（しげかつ）（内線６５５４）

東北地方整備局　入札監視委員会（第二部会）審議概要

開催日及び場所		平成２４年　７月１７日（火）　東北地方整備局会議室	
委員		部会長　真野　明　（東北大学災害科学国際研究所教授） 部会長代理　貝山　道博　（山形大学人文学部教授） 委　員　齊藤　幸治　（弁護士）	
審議対象期間		平成２４年　１月　１日～平成２４年　３月３１日	
総抽出案件		総件数　６件	〈備考〉 部会冒頭において 部　会　長に　真野　明　　委員 部会長代理に　貝山　道博　委員　を選任した。 その後 （１）工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 （２）指名停止措置の運用状況 （３）談合情報等の対応状況及び談合疑義事実の該当事案 （４）再度入札における一位不動状況 （５）低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況の報告を行った。
工事	抽出案件	件数　４件	
	一般競争（WTO対象）	２件	
	一般競争（WTO対象外）	２件	
	工事希望型競争	０件	
	工事希望型以外の指名競争入札	０件	
	随意契約	０件	
建設コンサルタント業務等		１件	
役務の提供等及び物品の製造等		１件	

委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回　答
	別紙のとおり	別紙のとおり

委員会による意見の具申又は勧告の内容	本日の審議結果について、意見の具申又は勧告事項はありません。

抽　出　案　件　工　事　概　要　書

	工　事　名	入札・契約方式	工事種別	契約金額 （単位：千円）	応募 業者数	参加 （指名） 業者数
1	八戸港八太郎地区防波堤(北)(災害復旧)本体工事(その４)	一般競争 （ＷＴＯ対象）	港湾土木工事	874,062	11者	11者
2	釜石港湾口地区湾口防波堤（災害復旧）付帯施設整備工事（その２）	一般競争 （ＷＴＯ対象）	港湾土木工事	3,385,200	4者	4者
3	久慈港湾口地区防波堤（南堤）本体工事（その２）	一般競争 （ＷＴＯ対象外）	港湾土木工事	458,850	1者	1者
4	仙台塩釜港仙台港区向洋地区岸壁（－１４ｍ）（災害復旧）工事（その４）	一般競争 （ＷＴＯ対象外）	港湾土木工事	340,200	15者	15者

抽出案件建設コンサルタント等概要書

	業　務　名	入札・契約方式	業務区分	契約金額 （単位：千円）	応募 業者数	参加 （指名） 業者数
5	大船渡港湾口地区防波堤土質調査	簡易公募型競争	測量・調査	23,268	5者	5者

抽　出　案　件　役　務　及　び　物　品　概　要　書

	業　務　名	入札・契約方式	業務分類	契約金額 （単位：千円）	応募 業者数	参加 （指名） 業者数
6	石巻港ケーソン横引装置修理工事	一般競争	物品の製造	620,550	1者	1者

別　紙

NO. 1

	意見・質問	回　　答
1-1	定例報告 「対象期間における発注案件について」 ・特になし	
1-2	定例報告 「指名停止措置の運用状況」 ・指名停止３件中、２件に同一の者が、独占禁止法違反行為で指名停止となっているが、２件目の指名停止期間は、１件目の指名停止を踏まえて、停止期間の加重はされないのか。	・２件目の独占禁止法違反の行為が、１件目の指名停止を行う前の行為であることから、加重の対象とはならなかったものです。
1-3	定例報告 「談合情報等の対応状況及び談合疑義事実の該当事案」 ・特になし	
1-4	定例報告 「工事種別ごとの再度入札における一位不動状況」 ・特になし	
1-5	定例報告 「工事種別ごとの低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況」 ・特になし	
2-1	審議 「八戸港八太郎地区防波堤(北)(災害復旧)本体工事(その４)」 ・入札に参加した１１者のうち、９者の入札金額は８億円台であるが、残りの２者が１１億円台であり、他者と比較して２億円以上の差が生じているのは何故か。 ・このケーソンは従来の物より大型化しているのか。 ・総合評価落札方式における加算点について、２種類の配点方法で行っているが、使い分けることに問題はないのか。	・本工事は、見積参考資料（金抜き設計書）を開示している案件で、入札参加者ごとに数量の差異は出ません。入札時に提出された工事内訳書を確認したところ、１１億円台の入札となった２者は他の９者と比べ、鉄筋加工組立や型枠組立組外しの単価が高いことが確認されており、それが原因と考えられます。 ・被災したケーソンより延長の長いものを製作しています。被災した防波堤を早く復旧させるため長くしたものです。 ・災害復旧工事に係る配点方法は、平成２４年２月中旬までは従来方式で、それ以降は改善した新方式で行っているものであり、恣意的に使い分けを行っているものではありません。

別　　紙

	意見・質問	回　　答
2-2	審議 「釜石港湾口地区湾口防波堤(災害復旧)付帯施設整備工事(その２)」 ・泉作業基地は陸上であるのに、２種類の同種工事の施工実績の両方に「海上において、」としているが、この工事は陸上から行うものではないのか。 ・競争参加資格要件の記載にある２種類の同種工事の施工実績が、別件工事でもよいとあるが、どういう意味か。	 ・本工事には、ケーソン製作のための海上打継場、海上打継に使用する桟橋及びケーソンの仮置場の整備が含まれています。いずれも陸上での工事ではなく、船舶を使用して海上で行う工事のため、どちらも「海上において」と指定しています。 ・同種工事の実績は、一つの工事でなく、別々の工事でもよいと言うことです。
2-3	審議 「久慈港湾口地区(南堤)本体工事(その２)」 ・入札参加者が１者のみとなっているが理由として技術者不足の状況等があるようだが、何かの対策をとっているのか。 ・入札にかかる資料をダウンロードした者を把握できるのか。	 ・ケーソン製作を行う本体工事の配置予定技術者に求める施工実績は、従来、ケーソンの重量を設定していましたが、本案件ではその設定をなくし、配置予定技術者の要件を緩和しています。 ・システム上、把握できることとなっています。
2-4	審議 「仙台塩釜港仙台港区向洋地区岸壁（－１４ｍ）（災害復旧）工事（その４）」 ・入札参加者の内、６者が無効となっているは何故か。 ・１５者が入札に参加しているが、参加者の多いのは何故か。 ・無効、辞退の者以外の８者について加算点が全者３０点となっているのは何故か。	 ・無効となった６者については、入札価格が調査基準価格を下回ったもので、施工体制の確認に必要な追加資料の提出を求めたものの資料を提出しない旨の申出があったことから無効としたものです。 ・陸上からの施工が可能であることや、東北で唯一となる北米航路のある知名度の高い主要岸壁工事であることから、各社とも受注意欲が高くなったものと考えられます。 ・限られた時間の中で早期に施設を復旧する必要があることから特例として、提案と評価に係る時間を軽減すべく、工程計画の可否と施工体制を確認する総合評価落札方式（簡略型）で行ったものであり、調査基準価格以上で応札した者の施工体制を評価したところ３０点となり、結果として加算点に差が生じなかったものです。

別　　紙

	意見・質問	回　　答
2-5	審議 「大船渡港湾口地区防波堤土質調査」 ・予定価格内の入札者が１者ということで、談合の疑いをもたなかったか。 ・評価項目に記載されている優良表彰の件数は年間何件位表彰されるのか。また、どこで決定するのか。	 ・落札者以外の者の応札額も予定価格と僅差であることから、適切な競争がなされたものと考えております。 ・年間５件程度表彰しており、内部の委員会で決定しています。
2-6	審議 「石巻港ケーソン横引装置修理工事」 ・発注金額としてはＡ等級であるが、Ａ等級以外のＢ、Ｃ等級の者も参加可能としたのは何故か。 ・機械設備類の修理業務を発注する際の仕様はどのように決めているのか。	 ・入札参加可能と推測されるＡ等級の者が少数であること、及び、Ｃ等級の者にも入札参加者に求める施工実績を有する者がいたことから、競争性を確保すべく、発注等級の拡大を行ったものです。 ・当局職員に機械関係の専門家がいないことから、機械設備の検討業務を外部に発注し、その成果を基に決定しています。